

創刊号
企画

病院内全部署
からの便り

【病院内全部署】

医局（診療部門）・看護部・薬剤部
放射線部・臨床検査部・臨床工学部
栄養管理部・リハビリテーション部
診療情報課・経営情報課
地域連携室

はくほうWalker No.1

広報誌名「はくほうWalker」には、はくほう会セントラル病院は地域住民や患者様と共に歩むという想いが込められています。



特集1 伯風会グループ & はくほう会セントラル病院 大紹介

ここが新しい!
リハビリテーション部について
ニューロテックリハビリとは?

特集2 リハビリテーションのご案内

のびのび健康教室
9月開催決定
場所、時間は後日公開

お知らせ

人伯
KUHOUKAI CENTRAL HOSPITAL

はくほう会セントラル病院

夏祭り
7月22日（土）14:30～予定
場所：中央棟1階フロア
対象は入院患者様及び
その家族様を予定



伯國会グループ はくほう会セントラル病院 大紹介

特集1

がグループの主たる法人であります。
医療法人伯鳳会は50周年、社会福祉
法人大阪暁明館は100周年を迎えるな
ど、永い間地域に根差した活動を行つて參
りました。グループは8つの病院を中心と
し、診療所、介護老人保健施設、介護老
人福祉施設、各種通所施設、身体障害者
授産施設、医療専門学校など60を超え
る事業所を運営しております。

グループの展開いたします地域は、兵庫
県赤穂市、姫路市、明石市、神河町、尼
崎市、大阪市、東京都と7地区にわたつて
おります。

グループ共通の基本理念は平等医療、
平等介護です。われわれの使命は、医療
介護を必要とする方へ必要な医療介護
を過不足なく、適正な価格で、快適に適
時提供することに他なりません。

伯鳳会グループの保健・医療・福祉サー
ビスが皆様のお役に立ち、皆様の健康な暮
らしに少しでも寄与する事が出来ればこ
れに勝る幸せはございません。伯鳳会グ
ループのこれからに御期待くださいませ。



理事長 古城 資久

医療法人伯鳳会
社会福祉法人大阪晩明館
社会福祉法人あそか会
医療法人五葉会
社会福祉法人玄武会
ナントラル・メディカル・サービス



赤穂中央病院



赤穂はくほう会病院



明石リハビリテーション病院



小国病院（姫路） 城南多胡病院（姫路）



城南多胡病院（姫路）



大阪暁明館病院



東京曳舟病院（東京）



あそか…それは、
人々の『無憂』を願う心



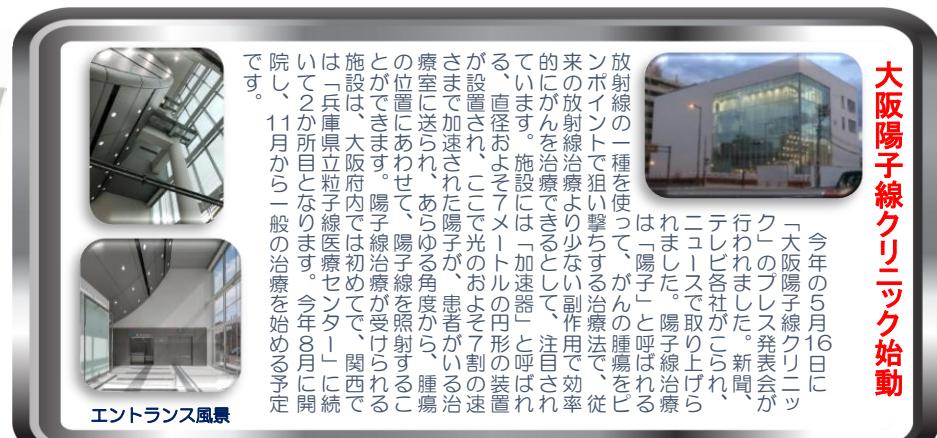
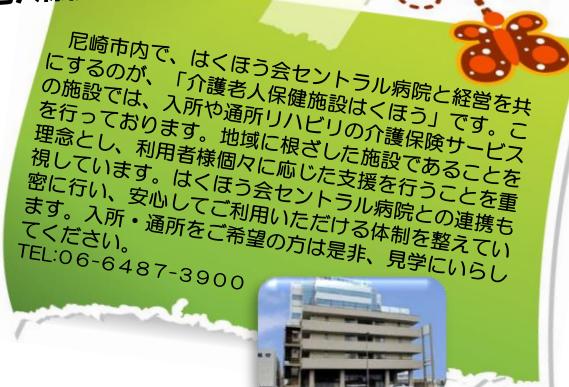
老健伯鳳会プラザ（赤穂）特養玄武会ヒルズ（赤穂）



大阪暁明館病院 東京曳舟病院（東京） あそか会病院（東京） 老健伯鳳会プラザ（赤穂） 特養玄武会ヒルズ（赤穂）

【主な施設紹介】 ※病院・クリニック、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、居宅介護支援事業所、訪問看護・介護事業所、デイサービス・就労支援施設、看護・リハビリ養成校、健康増進施設など兵庫・大阪・東京で60以上の事業展開

老人保健施設はくほう紹介



今年の5月16日、「大阪陽子線クリニック」のプレス発表会が行われました。新聞、テレビ各社がこちらニユースで取り上げられました。陽子線治療は「陽子」と呼ばれる放射線の一種を使って、がんの腫瘍をピンポイントで狙い撃ちする治療法で、従来の放射線治療より少ない副作用で効率的にがんを治療できるとして、注目されています。施設には「加速器」と呼ばれる、直線およそアメフトの円柱が設置され、ここで光のおよそ7割の速さまで加速された陽子が、患者がいる治療室に送られ、あらゆる角度から、腫瘍の位置にあわせて、陽子線を照射することができます。陽子線治療が受けられる施設は、大阪府内では初めてで、関西では「兵庫県立粒子線医療センター」に聞いて2か所目となります。今年8月に開院します。11月から一般の治療を始める予定です。

大阪陽子線クリーツク始動



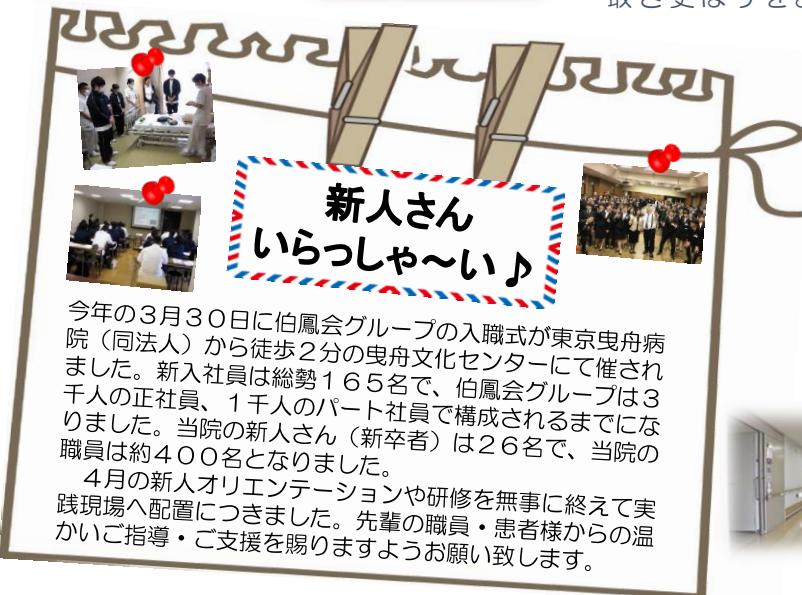
はくほう会セントラル病院
院長 古賀正史

はくほう会セントラル病院の広報誌「はくほうWalker」の第1号を手に取っていただき、ありがとうございます。当院は、平成27年4月に医療法人伯鳳会の一員となり、新たな病院として再出発をしました。その後、医療法人伯鳳会の「平等医療」の理念を尼崎の地で広めていこうと当院の職員全員が力を合わせて頑張っています。発足後2年が経過し、この度、当院の広報誌「はくほうWalker」を発行することになりました。今後、この広報誌を通じて、当院の紹介や最新の医学情報を発信していく予定にしています。当院は昨年病棟編成を行い、従来から力を入れてきた回復リハビリを中心に、高度急性期、急性期、回復期、慢性期と幅広い病状に対応することが可能となりました。当院は最新の医療機器を備え、地域の方に安心、安全な医療を提供できる体制を整えています。皆様に選ばれる病院を目指して、さらに成長してまいりますので、今後も末永いお付き合いをよろしくお願いします。



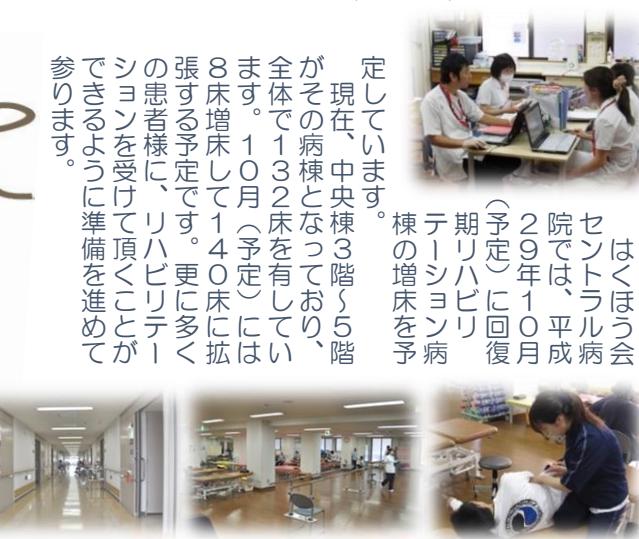
はくほう会セントラル病院
開院3年目を迎えました

はくほう会セントラル病院は、今年の4月で3年目を迎えることができました。「医療法人朗源会」から「医療法人伯鳳会」へと経営が移管され、地域に貢献できる病院となれるよう、取り組んで参りました。現在は、高度治療室を有する急性期病棟、療養病棟回復期リハビリテーション病棟のそれそれで地域の患者様に入院治療を受けていただける体制となりました。また救急外来、一般外来においても地域の患者様の健康を守るべく日々の診療を行っております。外来や急性期では、先進医療機器や手術室を使用して、診察・手術・治療を行っています。回復期リハビリテーション病棟では、その病床数は尼崎市内や阪神南圏域内でもトップクラスであり、リハビリを実施する療法士も100名を超えていました。患者様が再び生活に復帰できるように365日のリハビリテーションを提供し、ロボットを使用したリハビリなど、先進技術も導入しています。はくほう会セントラル病院3年目は、更に病院機能を拡充するなど、躍進できるように引き続き職員一丸となつて取り組んで参ります。



今年の3月30日に伯鳳会グループの入職式が東京曳舟病院（同法人）から徒歩2分の曳舟文化センターにて催されました。新入社員は総勢165名で、伯鳳会グループは3千人の正社員、1千人のパート社員で構成されるまでになりました。当院の新人さん（新卒者）は26名で、当院の職員は約400名となりました。

4月の新入社員オリエンテーションや研修を無事に終えて実践現場へ配置につきました。先輩の職員・患者様からの温かいご指導・ご支援を賜りますようお願い致します。

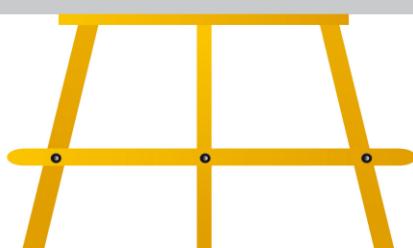


平成29年10月(予定)
回復期リハビリ病棟増床

専門外来の ご案内



- ・糖尿病外来 (月) 午前
(木) 午後
 - ・禁煙外来 (金) 午後
 - ・ニューロティック (金) 午前
 - ・フットケア (月) 午後
 - ・装具外来 (火) 午後
 - ・嚥下外来 (火) 午後



はくほう会セントラル病院
副院長・循環器内科に
舛谷医師が着任

【一】搖櫓

【ご挨拶】
兵庫医科大学病院、尼崎新都心病院では一貫して循環器疾患の治療（特にカテーテル治療）や予防に取り組んで参りました。カテーテル治療は橈骨動脈（手首の動脈）アプローチによる身体への負担の少ない検査・治療を行っており、また造影剤による腎障害の予防にも積極的に取り組んでおり、極力少量の造影剤を使用する治療を行い腎機能の悪化を予防しております。症例によっては数cc程度の造影剤での治療が可能です。当院でも同様な取り組みを続け、患者さんへ優しい治療を目指してまいります。



【鍼灸 云丸 医師】

昭和63年 兵庫医科大学 医学部 卒業
平成11年 兵庫医科大学大学院 修了
医学博士
平成23年 兵庫医科大学 内科学科冠疾患科
准教授
平成25年 佑成会西大阪病院 病院長
平成26年 済生会昭和病院 病院長
平成27年 医療法人財団
ヒューマンメディカル尼崎新都心病院
理事長
平成29年 はくどう会セントラル病院 副院長

はくほう会セントラル病院 特集2 リハビリテーション部の紹介



はくほう会セントラル病院リハビリテーション部です。私たちは4月より103名の部署となりました。理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）、リハ助手で構成され、医師の指示に基づき、患者様の治療を行います。



リハビリテーション部では、患者様（利用者様）に対して、回復・満足・喜びを引き出し、共に病気や障害と向き合い支援することを大切にしています。スタッフは100名を超えますが、大人数に埋もれることなく、一人ひとりが専門家としての自覚と確かな技術を持って治療することができるよう運営を行っています。

我々は、どのような状況でも諦めず、患者様の生活を再建する事に全力で取り組んで参ります。

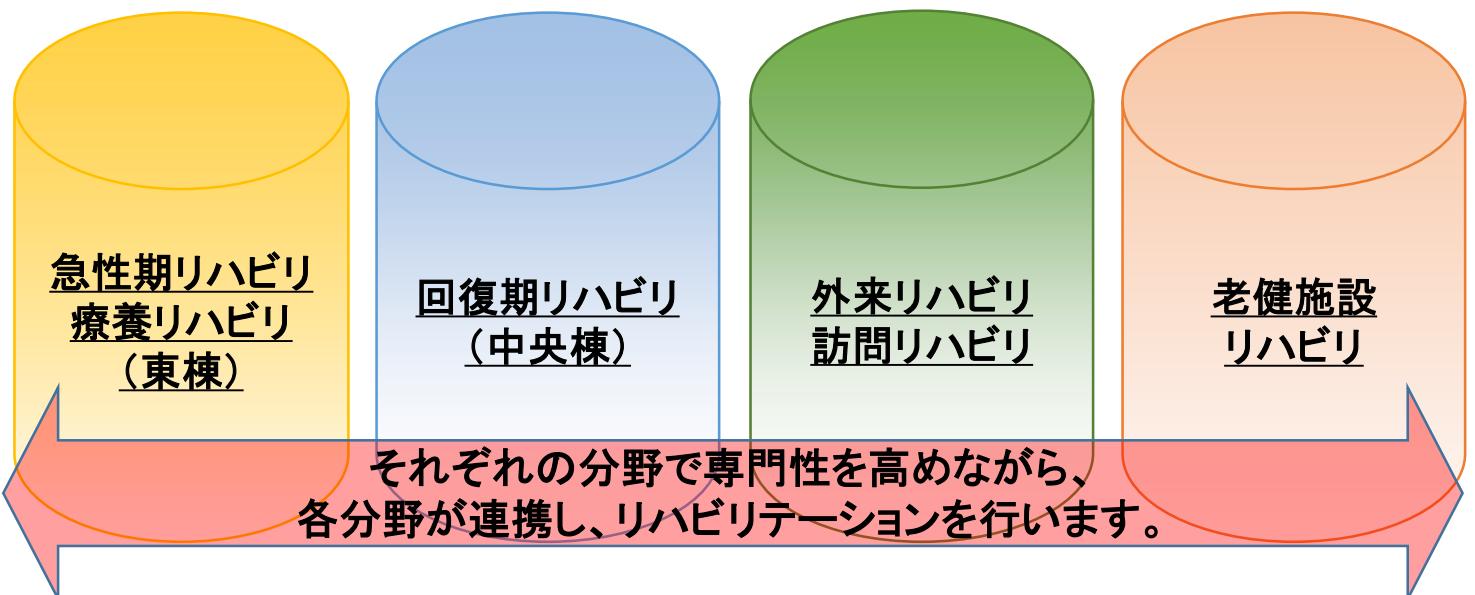
リハビリテーション部 課長代行 川端重樹

はくほう会セントラル病院 リハビリテーション部
【理念】

「良質なリハビリテーション医療を提供し、
その人らしい生き方をサポートする」

- ①全職員と協力し、患者様との信頼関係を構築します。
 - ②知識・技術を高め、患者様の回復・満足・喜びを引き出します。
 - ③病院から地域に至る全てのステージで、患者様の生活再建に貢献します。

リハビリテーション部は、理念に基づき、日々患者様と向き合っています。
「患者様とのお約束」
①～③の行動を行うことを患者様へのお約束として取り組んでいます。



昨今、回復期リハビリテーション病棟では365日リハビリが可能な病院が全国的に当たり前になりつつあります。当院でも、祝日・正月等に関係なく365日リハビリを行う体制を整えていきます。これに加えて、今年度からは、急性期病棟でも365日リハビリが行える体制を整えます。急性期でこの体制を整えていいとする病院はまだ少ないので、当院ではいち早く体制を整えます。これにより、急性期治療中の患者様が寝たきりになる可能性を限りなく減らし、褥瘡（床ずれ）や感染症などの危険性も減少するよう努めています。



全ての入院患者様への
リハビリ365日実施体制へ



平成28年3月に開始した「訪問リハビリテーション」も地域の居宅介護支援事業所をはじめ、多くの方々にご利用いただきました。おかげさまで、100名を超える利用者様とのご縁を頂くことができました。今後も、「ニーズの一歩先をご提供できるサービス」を目指し、お一人ずつ丁寧に細やかになりハーリテーションが行えるように精進してまいります。

居宅介護支援事業所、通所介護・特別養護老人ホーム等の入所施設様での、リハビリテーションに関するアドバイザーとしてご訪問させていただいている。また、自宅の住宅改修の立ち合いのみでもお声掛けいたいだければ、お伺いします。お気軽にご利用ください。



【ニューロテックリハビリテーション】



ニューロテック
安全・効果的
に実施するため
のリハ部の活動
について

リハ部では、リハ科医長 貴賓院医師と協力して、療法士に対して、先進リハビリの考え方や技術習得のための勉強会を開催しています。多くの患者様に「ニューロテックリハビリ」を受けていただけにあたり、安全で効果的に治療が行えるよう努めています。また、関係する外部研修、学会にも積極的に参加しています。



ニューロテックとは、我々の使命『神経障害をテクノロジーで治療する』よりNeuron（神経）とTechnology（テクノロジー）を掛け合わせ命名致しました。はくほう会セントラル病院は、平成29年1月4日より最先端のリハビリテーションを受けることの出来るニユーロテック外院・入院を開始し、専門医の診断の上、最先端のリハビリテーション（ボツリヌス療法、電気刺激療法、ロボット療法、再生医療（臨床研究中）を中心とした各専門チームを中心として当院リハビリテーションの底上げをして参ります。



医長 貴賓院 永稔
リハビリテーション科

Neuron
(神経)



Technology
(テクノロジー)

ボツリヌス療法

手(上肢)の主な注射部位



※効果には個人差があります。

足(下肢)の主な注射部位



- 手足が動かしやすくなります。
- 筋肉を柔らかくすることができます。
- 関節が固まることを予防します。
- リハビリが行いやすくなります。
- 痛みを和らげます。
- 介護の負担が軽くなります。

注射によりマヒなどで硬くなったり筋肉を柔らかくすることができます。ボツリヌス療法によって次のような効果が期待できます。

注射で筋肉を柔らかく

「ロボット」の可能性と

「人」の技術力で治療



当院は世界初のロボット治療機器である医療用「人」を導入しました。また、ロボット歩行アシストも導入しています。腕の動きを練習するロボットを使用した臨床検査も行っています。ロボットの可能性と、療法士の技術を融合させて、治療を行っています。動けなくなってしまう病気や障害は「もう一度歩きたい、手足を動かしたい」という想いを全力で支援します。お困りの場合は、是非一度ご連絡ください。

電気刺激療法



電気で筋肉を動かして手足の動きを脳で覚える

神経障害による運動麻痺は十分な範囲を自分で動かせないと、回復が難しくなるだけでなく、関節が固まってしまいます。自分で手足を動かすことができなくて、筋肉の動きを補助することで、動きを出すことができます。これに合わせて、自分で手足の動かし方を再学習させることにより運動麻痺を改善させる事が出来ます。



上肢機能訓練ロボット 臨床治験患者募集中
※詳しくはリハ部にお問合せ下さい



伯鳳会へ法人移管して3年目を迎え、これまで病院機能を再稼働させたり、新たな加算・施設基準を取得してきました。昨年6月に中央棟4Fで入院基本料Ⅰを取得し、8月には同病棟で体制強化加算Ⅱも取得。9月には休床していた20床をオープンさせ病棟編成を行い、療養病床43床新規開設。急性期病床57減床させ65床（うちHCU5床新規開設）。回復期病床4増床させ132床。12月には中央棟5Fでも入院基本料Ⅰを取得し全回復期病床が入院基本料Ⅰとなりました。また、先進リハビリ（ロボットリハ、再生医療、電気治療、ボトックス治療）に積極的に取り組んでいます。本年10月（予定）には増床に伴う病棟編成を予定しています。これからも、地域のニーズに合わせ、素早く柔軟に対応の出来る病院を目指していきたいと考えています。

創刊号
企画

日本は、まさに少子超高齢化社会に突入し、これまで『病院完結型』の医療から『地域完結型』の医療へとシフトしてきました。当院のように地域に密着した民間病院は、暮らしと医療を切り離さず、高齢者が住み慣れた地域で安心して最後まで暮らせるように支援することが使命であり、看護部としても最重要課題と考えております。その関わりの中で、看護部は理念に掲げた『LOVE（愛）ある看護』の基、患者様お一人おひとりが、その人らしく生きていっていただくためのお手伝いをします。また、看護部スタッフ一人ひとりがやりがいを見つけ、それぞれにスキルアップができるように、これまでの教育体制の見直し、個々に合ったキャリア支援を行っています。そして、今よりも『強くしなやかな看護部』を作り、地域の方々はもちろん、職員からも『選ばれる病院』にしていきたいと考えております。

看護部
部長
仲川 八千代



医局



<内科>

一般的な内科疾患をはじめ、多様化、専門化する内科疾患に対して各内科医が専門性（糖尿病、消化器疾患、睡眠時無呼吸、禁煙など）を持って診療に当たっています。専門外来では、「糖尿病外来」「禁煙外来」も行っています。また、内視鏡検査も実施しています。

<外科>

外来では主に外傷と肛門疾患から消化器疾患を中心に診療しています。悪性腫瘍の手術から一般外科、また毎週木曜日は尼崎の輪番にも対応し、緊急手術にも対応しています。人員は2人と微力ながら他科の先生の協力を得て、がんばっています。

<脳神経外科>

当科では、市中病院としての役割として、主に脳卒中を中心に、園田地域だけでなく、来院される周辺地域の住民に、良質な医療を提供することを心がけております。また、脳卒中の予防医学にも取り組み、脳卒中後の生活習慣病にも対応しております。患者様の状態に合わせて、脳卒中の急性期入院から、外来での通院まで、役立てれば幸いです。よろしくお願ひいたします。

<整形外科>

整形外科では、主に外傷、関節疾患（リウマチ、変形性関節症等）、脊椎疾患（腰部椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症等）の治療を行っています。外傷について、手術が必要な場合は、麻酔科藤田先生のご協力もあり、早期の対応が可能となっております。昨年の手術件数は152件で、その約半数（72件）は外傷でした。

<循環器内科>

当院循環器内科は地域密着型のプライマリーケアの充実を目標に掲げ、近隣の開業医の先生方との連携を重視しています。虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）、心不全、不整脈、全身の動脈疾患などを対象として少人数ですが迅速かつきめの細かい医療を目指しています。胸痛、動悸、息切れ、高血圧、下肢や全身のむくみなどの症状に対して紹介をいただけたら、血液検査、レントゲン、心電図検査はもちろんエコ一検査も可能な限り当日中に行い、東芝社320列CTで冠動脈、肺血管、全身の動・静脈の検索を行うことができます。また心臓MRI、ホルター心電図、血管造影装置（2台）を駆使し大病院と同等程度の医療を提供することができます。基幹病院に紹介しにくい不定愁訴や、判断のしにくい症状を含め超高齢者の患者様にもいつでも対応させて頂きます。

<麻酔科>

手術麻酔全般と周術期疼痛管理を担当しています。患者様の不安や恐怖などのストレスを可能な限り軽減して、安全で痛みの無い快適な手術を受けて頂けるように主科と協力して周術期管理に当たっています。自分自身が受けたいと思える麻酔管理を患者様に提供することを心がけています。

<放射線科>

地域医療機関や院内各診療科からのCT・MRI検査依頼に対し、迅速な対応（読影）を目指しています。患者様には安心して検査を受けていただけるよう努めます。

<リハビリテーション科>

リハビリ科では、前法人から20年以上の長きにわたり急性期～慢性期における幅広い疾患の患者様を対象にリハビリテーションを提供してきました。特に脳血管疾患・脊髄疾患・神経疾患等のリハビリテーション領域では格段の進歩を続けており、最先端のリハビリテーション（詳細は本誌「特集2」）を提供出来る体制を整えました。また、昨年開始したダンス外来はヨーロッパなど遠方から患者様が来院されるなど人気の外来に成長しました。更に、各種専門チームを立ち上げることで、病院スタッフの意識・教育・技術の底上げを目指しております。今後も、患者様や地域医療に貢献出来る様に日々努力致します。リハビリテーション科は日々ご協力いただいているスタッフへの感謝を忘ること無く、皆さんとともに地域医療と病院の発展に貢献できるよう努力してまいります。

地域連携室

地域連携室では、医療ソーシャルワーカー（4名）と事務員（2名）が他医療機関からの紹介患者様を、お受けするための窓口としての業務や、それに係る調整を行っております。また、外来通院中または入院中の患者様やご家族様からのご相談に応じ、安心して療養生活を過ごしていただける様に、親しみやすさとフットワークの軽さをモットーに、日々業務を行っております。お困りごとがございましたら、ご相談ください。

[開室時間]

(月)～(金) 8:30～17:30 (土) 8:30～12:30 *日曜・祝日・年末年始は閉室となります。

[電話・FAX] 06-4960-6820 (直通) 06-4960-6707 (直通FAX)



診療情報課

私たち診療情報課スタッフは「患者様の立場になって考え、思いやりの心で接する」ように、適正な請求業務を理念とし患者様により良い医療を提供できるように心掛けています。業務内容としては、外来初診・再診の受付、入退院の受付、各種お問い合わせ（治療費等）を行っております。また、診療行為の計算や診療報酬明細書の作成、外来治療費、入院費の会計業務を行っています。

『笑顔』、『思いやりの心』、『待ち時間の短縮』、『適正な請求』、『知識向上』を日々の目標として、スタッフ全員で努力してまいります。



病院の中には、いろいろな仕事があり、専門家がいます！
はくほう会セントラル病院 全ての部署を紹介

看護部



看護部は、外来部門（一般外来、救急外来、手術室、カテール室、内視鏡室）と昨年よりオープンした療養病棟とHCU（高度治療室）を含む急性期病棟、回復期リハビリ病棟を合せて7病棟、8部署に分かれて業務を行っております。平成29年6月現在、看護師125名、看護助手43名、クラーク5名、総勢173名となっています。平均年齢39.2歳（急性期は36歳）です。このようなスタッフで、患者様の診療や治療の補助や日常生活援助などをさせていただいております。そして、患者様の一番近くで関わる私たちは、チーム医療のキーパーソンとしての役割も担っており、患者様からの声をチーム内に届けております。これからも患者様が満足いただけるように、みんなで力を合わせて頑張りますので、どうぞ宜しくお願いします。

管理栄養部



入院中または外来通院中の患者様やご家族様に向けて、「分かりやすく、続けられる」栄養指導を行っています。栄養指導は「難しい?」「厳しく言われそう…」「大変そう」そんなことはありません。私たちとの話からできることを見つけ、無理せず、少しずつ改善していきましょう。

臨床検査部

『迅速 精確 笑顔』
臨床検査部はこの理念を基に、検体検査は血液・尿・便などの検査を、生理検査は超音波、心電図、睡眠時無呼吸症候群などの検査を行っています。迅速かつ精確に笑顔で実施し、患者様の診断・治療を支援させて頂いています。また、チーム医療の一構成員として診療や各種委員会活動に積極的に取り組んでいます。

放射線部は診療放射線技師が集まり、レントゲン・CT・MRIなどの検査を行っている部門です。医師からの要望に応えるため、出来るだけ情報量の多い画像を提供すると共に、患者様に思いやりをもって接し、被ばく線量低減に努め、撮影・検査内容についてわかりやすく説明し業務を行うよう心かけています。

放射線に関するご質問は、私達に遠慮なくご相談ください。

放射線部



薬剤部

薬剤部では、入院調剤業務、病棟業務（服薬指導）、DI業務、医薬品の管理業務を行っています。さらに、後発医薬品の採用拡大、外来から入院調剤までトータルの医薬品の適正使用に努め、患者様の健康と利益の向上に寄与し続けたいと考えております。
薬に関するご質問は何でも私達にご相談ください。

臨床工学部

臨床工学技士とは？

病院で医師以外の診療補助に従事する看護師や各種の医療技術者などをメディカルスタッフと呼んでいます。臨床工学技士はメディカルスタッフの一職種であり、現在の医療に不可欠な医療機器のスペシャリストです。今後益々増大する医療機器の安全確保と有効性維持の担い手としてチーム医療に貢献しています。現在、新たな取り組みとして、CPAP（持続陽圧呼吸療法）におけるフォローを行っております。親身になって患者様と2人3脚となり、より良い睡眠をとっていただこうと思っております。睡眠に関して不安ありましたら、お声掛けください。



リハビリテーション部

リハビリテーション部は、「良質なリハビリテーション医療を提供し、その人らしい生き方をサポートする」ことを理念に掲げ、患者様の生活再建を全力で支援するように努めています。リハビリテーション部には理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が所属しています。我々は患者様のパートナーとして、共に病気と闘います。



経営情報課は、患者さまと病院とを結ぶ機能および、医療スタッフの支援を積極的に行っております。業務内容は、総務、経理、人事、システム、施設管理、資材の係に業務を分け担当しております。総務・労務は、給与関係や行政への手続きなど、事務業務人事は人材の確保のための求人活動や職員の昇進昇格に伴う手続き等、経理は日々の会計処理、月次決算、年度決算に関する財務諸表などの作成、システムは電子カルテや通信機器などの管理、施設管理は空調設備や給排水設備などの大掛かりなものから、照明機器などの小さいものまで設備・機器の管理、資材は病院運営に必要な消耗品・医療材料の購入、在庫管理を行っています。経営情報課はこれからも、常に迅速性、正確性、効率性を意識した業務を心がけ、健全な病院経営の視点から業務を考え、仕事の改善を行い続けます。

経営情報課



はくほう会セントラル病院 外来診療表

	受付開始	診療開始	受付終了
午前	8:30	9:00	12:00
午後	13:45	14:00	16:30

診療科によっては、午前・午後、曜日により診察がない場合や、担当医師の学会等への参加のため休診や代診をする場合がありますので、お電話や下記の外来診療担当表などであらかじめご確認の上、ご来院下さい。

部屋NO.	午前診										午後診		
	診察室(1)	診察室(2)	診察室(3)	診察室(4)	診察室(5)	診察室(6)	診察室(7)	診察室(9)	診察室(10)	(予約制)	専門外来		
診療科				外科	内科	循環器	脳外科	整形外科	整形外科	リハビリ	専門外来		
月	心臓血管外科 山田	— 舛谷	循環器内科 生活習慣病 磯部	糖尿病内科 古賀	岡	上坂	川津 (再診)	高田 (初診)	足立	フットケア外来 岡	—	心臓血管外科 山田	
火	—	—	—	井上	米田	循環器内科 生活習慣病 舛谷	—	杉谷	—	山本	— 菅	嚙下・ 装具外来 足立	
水	—	—	循環器内科 弓場	10時～12時 古城	米田	岡	上坂	川津 (初診)	杉谷 (再診)	山本	脳外科 吉村	—	—
木	—	—	—	磯部	兒玉	豊福	一般内科 松村	高田 (再診)	杉谷 (初診)	西村	糖尿病内科 古賀	整形外科 14時～16時 杉谷	—
金	ニューロテック 貴宝院	— 舛谷	循環器内科 生活習慣病 井上	兒玉	岡	上坂	川津	心臓血管外科 山田	東	内科 禁煙外来 14時～16時 山田	ダンス外来 米田	心臓血管外科 足立 山田	
土	—	—	磯部 (第1・3・5) 井上 (第2・4)	米田	豊福	—	高田	—	田中 (第1・3・4) 菅/田口 (第2・5)	—			

病院ホームページのご案内

昨年度、伯鳳会グループ、はくほう会セントラル病院のホームページをリニューアルしました。当院をご利用いただく全ての方々に、見やすく、分かり易く情報をお伝えできるように努めて参ります。



はくほうかい

ホームページ アドレス <http://www.amahakuho.jp/>

facebook もやってます



阪急園田駅に看板を設置

阪急園田駅に当院の案内看板を設置しています。
是非ご覧ください。



【編集後記】

はくほう会セントラル病院が開院して2年が経ちました。当初から「広報誌」を発刊する企画は出ていましたが、なかなか思う様に進まず、このタイミングでの発刊となりました。この2年間は目まぐるしく体制を変化させ、ようやく安定してきたように思います。病院広報委員会も設立され、今後は更に当院を知って貰える機会を作り出していくたいと思います。

「広報誌」を作る過程で、色々ご協力を頂いたり、ご意見を頂いたりで調整は前途多難でしたが、完成・発刊できて安堵しています。少しでも多くの方々の目に触れることを願っています。

はくほう会セントラル病院 広報委員会一同



医療法人伯鳳会
はくほう会セントラル病院
兵庫県尼崎市東園田町4丁目23番1号
TEL : 06-4960-6800 (代表)
FAX : 06-4960-6900